

修了評価の方法

評価基準作成者：濱原 賢次

評価方法及び合格基準	<p>1 出題範囲</p> <ul style="list-style-type: none">・「(2) 介護における尊厳の保持・自立支援」から「(9) ころとからだのしくみと生活支援技術」までとする。・中央法規出版テキスト1第4版44ページから447ページ 中央法規出版テキスト2第3版2ページから347ページまでの間で出題する。 <p>2 出題形式</p> <ul style="list-style-type: none">・選択形式及び〇×形式とする。 <p>3 出題数</p> <ul style="list-style-type: none">・選択式問題 21 問、〇×形式問題 4 問 全問正解：100点満点 (配点1問各4点)・「(2) 介護における尊厳の保持・自立支援」から3問 「(3) 介護の基本」から4問 「(4) 介護・福祉サービスの理解と医療の連携」から3問 「(5) 介護におけるコミュニケーション技術」から2問 「(6) 老化の理解」から3問 「(7) 認知症の理解」から2問 「(8) 障がいの理解」から2問 「(9) ころとからだのしくみと生活支援技術」から6問 <p>4 合否判定基準</p> <p>60点以上</p> <p>5 不合格になったときの取扱い</p> <ul style="list-style-type: none">・結果発表後、直ちに1時間の補習のうえ再評価を行う。 なお、再評価に係る合格基準は60点以上とする。 補習料：1時間あたり1,000円 再評価料2,000円・再試験を最大2回まで実施する。 なお、再試験の結果、不合格であった者には、修了評価者が直ちに個別に補習を行い、再々試験を実施する。 再々試験料：2,000円
------------	--